TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　440語

Why the Bear has a Short Tail

クマのしっぽはなぜみじかい

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：Lily Ellis

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　おいしそうな魚をもったキツネに出会ったクマ。「つり方を教えて」とたのむと、キツネは氷の池でとっておきのひみつを教えてくれて……。

One cold morning when the fox was coming up the road with some fish, he met the bear.

"Good-morning, Mr. Fox," said the bear.

"Good-morning, Mr. Bear," said the fox. "The morning is brighter because I have met you."

"Those are very good fish, Mr. Fox," said the bear. "I have not eaten such fish for many a day. Where do you find them?"

"I have been fishing, Mr. Bear," answered the fox.

"If I could catch such fish as those, I should like to go fishing, but I do not know how to fish."

"It would be very easy for you to learn, Mr. Bear," said the fox. "You are so big and strong that you can do anything."

"Will you teach me, Mr. Fox?" asked the bear.

"I would not tell everybody, but you are such a good friend that I will teach you. Come to this pond, and I will show you how to fish through the ice."

So the fox and the bear went to the frozen pond, and the fox showed the bear how to make a hole in the ice.

"That is easy for you," said the fox, "but many an animal could not have made that hole. Now comes the secret. You must put your tail down into the water and

keep it there. That is not easy, and not every animal could do it, for the water is very cold; but you are a learned animal, Mr. Bear, and you know that the secret of catching fish is to keep your tail in the water a long time. Then when you pull it up, you will pull with it as many fish as I have."

The bear put his tail down into the water, and the fox went away. The sun rose high in the heavens, and still the bear sat with his tail through the hole in the ice. Sunset came, but still the bear sat with his tail through the hole in the ice, for he thought, "When an animal is really learned, he will not fear a little cold."

It began to be dark, and the bear said, "Now I will pull the fish out of the water. How good they will be!" He pulled and pulled, but not a fish came out. Worse than that, not all of his tail came out, for the end of it was frozen fast to the ice.



He went slowly down the road, growling angrily, "I wish I could find that fox;" but the cunning fox was curled up in his warm nest, and whenever he thought of the bear he laughed.

あるさむい朝、キツネが魚をもって道をやってくると、クマに出会いました。

「おはよう、キツネさん」とクマは言いました。

「おはようございます、クマさん」とキツネは言いました。「あなたに会えたので、けさはいっそう明るく感じますよ。」

「それはずいぶんいい魚だね、キツネさん」とクマは言いました。「そんな魚はもう長いこと食べていないよ。どこで見つけるんだい？」

「魚つりをしてきたんですよ、クマさん」とキツネは答えました。

「そんな魚がつれるなら、わたしも魚つりに行きたいなあ。でも、つり方を知らないんだ。」

「クマさんなら、すぐにおぼえられますよ」とキツネは言いました。「そんなに大きくて強いんですから、何だってできますよ。」

「教えてくれるかい、キツネさん？」とクマはききました。

「だれにでも教えるわけじゃありませんが、あなたはとてもいいお友だちですから教えてあげましょう。この池へ来てください。氷にあなをあけて魚をつる方法を見せてあげます。」

そこでキツネとクマはこおった池へ行き、キツネはクマに、氷にあなをあける方法を教えました。

「あなたにはかんたんですね」とキツネは言いました。「でも、このあなをあけられない動物はたくさんいるんですよ。さあ、ここからがひみつです。しっぽを水の中にたらして、そのままじっとしているんです。これはかんたんではありませんし、どの動物にでもできることじゃありません。水がとてもつめたいですからね。でもクマさん、あなたはものしりな動物ですから、魚をつるひみつは、しっぽを長いあいだ水の中に入れておくことだとわかっていますよね。それからしっぽを引きあげれば、わたしと同じくらいたくさんの魚がいっしょにつれてきますよ。」

クマはしっぽを水の中にたらし、キツネは行ってしまいました。お日さまが空高くのぼっても、クマはまだ氷のあなにしっぽを入れてすわっていました。夕方になっても、クマはまだ氷のあなにしっぽを入れてすわっていました。「ほんとうにものしりな動物なら、少しくらいのさむさはこわがらないものだ」と思ったからです。

暗くなってきたので、クマは言いました。「さあ、水の中から魚を引きあげよう。きっとおいしいぞ！」クマは引いて引いて引きましたが、魚は1ぴきも出てきませんでした。それどころか、しっぽもぜんぶは出てきませんでした。しっぽの先が氷にしっかりこおりついてしまっていたのです。

クマは「あのキツネを見つけてやりたいものだ」とおこってうなりながら、とぼとぼ道を歩いていきました。でもずるがしこいキツネは、あたたかい巣の中でまるくなっていて、クマのことを思い出すたびにわらっていました。

たんご と クイズ　クマのしっぽはなぜみじかい

fox キツネ	**fish** 魚	**bear** クマ
pond 池	**ice** 氷	**hole** あな
tail しっぽ	**secret** ひみつ	

Q1 **キツネはクマに、どうやって魚をつると教えた？**

① あみですくう　② しっぽを水の中に入れておく　③ 手でつかまえる

Q2 **クマがさむくてもがまんしたのはどうして？**

① ものしりな動物はさむさをこわがらないと思ったから　② キツネが見ていたから

③ 毛皮があたたかかったから

Q3 **クマのしっぽがみじかくなったのはどうして？**

① 魚にかまれたから　② キツネにかじられたから　③ しっぽの先が氷にこおりついたから

こたえ

Q1　②　キツネは、氷のあなからしっぽを水の中にたらして、長いあいだじっとしているのがひみつだと教えました。

Q2　①　キツネに「ものしりな動物」とおだてられたクマは、少しのさむさなどこわがらないぞと思ったのです。

Q3　③　長いあいだ水に入れていたので、しっぽの先が氷にこおりついて、ぜんぶは出てこなかったのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Lily Ellis（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。